

南湖におけるホンモロコの産卵状況調査

片岡佳孝

1. 目的

種苗放流や生息環境整備（外来魚駆除、水草刈り取り等）により、南湖ではホンモロコの自然産卵が復活、回復してきた。そのため種苗放流は、2022 年度をもって終了したが、南湖でのホンモロコ資源の状況をモニタリングするために産卵状況調査を継続して実施している。本稿では 2023 年度の南湖での産卵状況調査の結果を報告する。

2. 方法

ホンモロコの産卵期間に草津市下笠地先のヤナギ林（調査区間：約 153m。以下、下笠）および守山市赤野井地先のヤナギ林（調査区間：約 212m。以下、赤野井）において産着卵数の計数調査を行った。調査は、1 回/週の頻度で下笠、赤野井ともに 2023 年 3 月 16 日～6 月 28 日の間に計 16 回行った。

3. 結果

ホンモロコの産着卵は、下笠では 3 月 16 日から 6 月 22 日、赤野井では 3 月 16 日から 6 月 13 日の間で確認された（図 1）。産卵ピークは下笠、赤野井ともに 5 月 17 日であり、昨年度のピーク（下笠、赤野井ともに 2022 年 6 月 6 日）に比べて 20 日ほど早かった。

調査期間中の総産着卵数は、下笠で 972 万粒、赤野井で 1,194 万粒であった（図 2）。下笠の総産着卵数は昨年度比 1.4 倍で調査開始以降最多、赤野井は 0.9 倍で昨年並みの産卵であった。昨年度の赤野井は、6 月 6 日の産卵ピーク時に総産卵数の約 52%（720 万粒 / 1371 万粒）を計数しており、一時期に集中した産卵であった。そのため、卵が過密となり死亡リスク（水カビ発生や酸素不足）が懸念されたが、本年度はそのようなことがなく産卵状況は昨年度よりも良好であった。

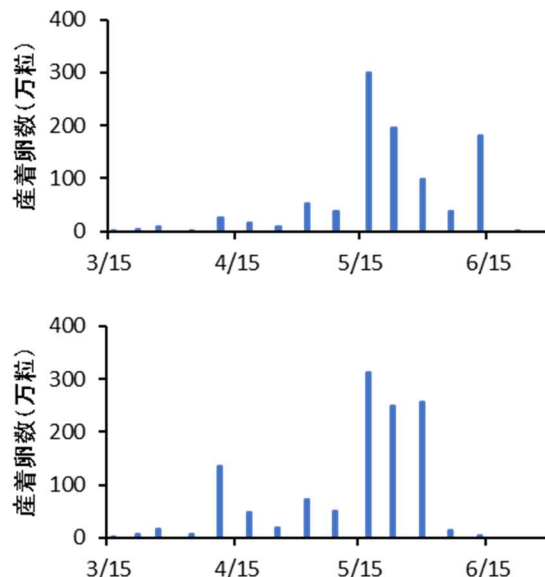


図 1 調査日ごとの産着卵数（上：下笠、下：赤野井）

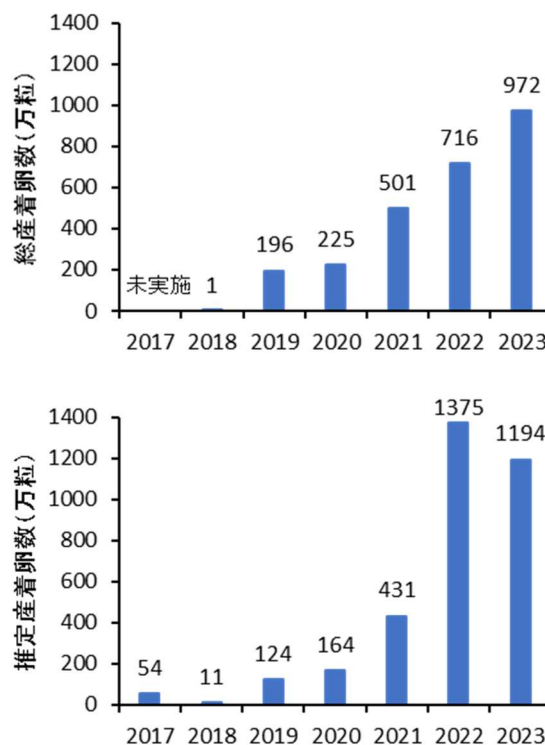


図 2 総産着数の推移（上：下笠、下：赤野井）